

展示品の  
みどころ

卣



青銅製  
高 30.8cm  
中国・商(殷)末期～西周初期  
(紀元前11～前10世紀)  
当館(坂本コレクション)

「国立博物館では青銅器にどんなお手入れをしているのか?」と一般の方からお問い合わせを頂く。青銅器の愛玩者は意外に多い。モノの状態にもよるが、「当館では何もしていません」と正直にこたえている。一般的には湿度が低く、寒暖差の少ない環境に置くのが理想。多少の錆は3千年の時間が作った風格であり、油を塗ったりタワシで磨いたりしては青銅器が泣く。ドンと構えて、その重厚な造形と不思議な文様を楽しみたい。

写真は把手付きの酒壺、卣である。黄河文明で有名な殷墟の時代、今からおよそ3千年前の遺品である。酒池肉林の贅沢で知られる暴君紂王は殷王朝の最後の王で、本器はまさにその頃の品と言えば分かり易いか。把手の付け根には鹿や牛、山羊などの顔を貼り付けるのがお約束。だがメインは胴部の文様で、鳳凰のモチーフであれば鳳凰紋卣、本品のような横長の小龍は夔龍紋卣と呼ばれる。古代中国では神や祖先を祭るための酒器が発達する。本器もその一つで、霊獣の紋様に守られた神聖な酒壺である。シャープな蓋の縁、豊かに膨らむ胴、重厚な中にどこか垢抜けた造形に心惹かれる。殷の都のあった河南省で作られたものか。まあ、細かなことは措いて、ありのままに置かれた姿かたちを見て欲しい。

吉澤 悟 (当館学芸部列品室長)

◆青銅器館名品展「中国古代青銅器(坂本コレクション)」にて展示

梵天立像



重要文化財  
頭部：脱活乾漆造 彩色  
奈良時代(8世紀)  
体部：木造 彩色  
鎌倉時代  
正応2年(1289)  
像高 205.0cm  
奈良 秋篠寺

頭部のみが奈良時代(8世紀)に造られた脱活乾漆造の像で、体部は木造である。顔を含め、彩色が鎌倉時代の修理のものであるため、頭部と体部の時代や素材の違いの見分けが付きにくい。顔や頭髪には奈良時代の乾漆像らしい柔らかい表現が見られる。像内に修理銘があり、体部は正応2年(1289)に補われたことがわかる。秋篠寺には同じ年に体部を補われた救脱菩薩立像があり、その像内に「院湛」という仏師の名が記される。この仏師銘から、これらの秋篠寺の仏像は、京都で活躍していた院派仏師によって修理されたと考えられ、院派仏師の奈良での事績を物語る遺品といえる。

本像は、今年の7月からイタリア・ローマのクイリナーレ宮美術館において開催された「日本仏像展」に出展された。今年3月28日からの展示が帰国後初めての公開となる。鎌倉時代の古い彩色が多く残る像のため、長期間の陳列はかなわない。この機会に是非ご覧いただきたい。

岩井 共二(当館学芸部情報サービス室長)

◆なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月～6月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時  
・金・土曜日は、特別展「快慶」は午後7時、  
名品展は午後8時まで開館  
※入館は閉館の30分前まで

■観覧料金 特別展 快慶

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人	1500円	1000円	500円
団体	1300円	800円	300円

※団体は20名以上です。  
※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。  
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は、当日券を400円でお求めいただけます。

■休館日／毎週月曜日、ただし5月1日(月)は開館

★無料観覧日(名品展のみ)／  
5月5日(こどもの日)、5月18日(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

※団体は20名以上です。  
※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。  
※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。  
※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額になります。  
※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(子どもといっしょ割引)。



●バス停

[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。